

開催日時：令和6年2月7日（水）午後3時から

開催場所：国保匝瑳市民病院 第1講義室

1 開会

【事務局】

それでは定刻になりましたので、旭中央病院・匝瑳市民病院医療連携協議会を開会いたします。

皆様にはお忙しいところご出席いただき誠にありがとうございます。本日の司会を務めさせていただきます、国保匝瑳市民病院事務局の〇〇と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、次第に従いまして会議を進行してまいりたいと思います。次第の2、会長あいさつをお願いします。

2 会長あいさつ

【会長】

皆様、改めましてこんにちは。本日は、旭市長、旭中央病院理事長をはじめ、旭中央病院の皆様、また、千葉県の皆様、アドバイザーの皆様には、大変お忙しい中、貴重なお時間を頂戴いたしまして、誠にありがとうございます。

また、これまで4回にわたり幹事会に出席をいただきました幹事の皆様、地域医療連携アドバイザー事業を活用させていただきました千葉県の皆様をはじめ、関係の皆様のご尽力に熱く御礼を申し上げます。

さて、本日は、これまで幹事会にて分析、検討を進めてきた、この地域における今後の医療需要を想定した、旭中央病院と匝瑳市民病院の連携及び匝瑳市民病院の機能分化、役割について、その内容を報告いただき、ご出席の皆様の共通認識のもと、千葉県の地域医療構想に即した今後の方向性を導き出せればと思います。

引き続き、皆様のご協力と積極的なご意見をお寄せいただけますよう、よろしくお願いいたします。簡単ではございますが、協議に先立ちましてのご挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

【事務局】

ありがとうございました。続いて、次第の3、幹事会検討結果報告とさせていただきます。幹事長の〇〇委員、よろしくお願いいたします。

3 幹事会検討経過報告

【幹事長（委員）】

私の方から幹事会での検討経過を報告させていただきます。それでは旭中央病院・匠瑛市民病院医療連携協議会幹事会検討経過というペーパーをご覧くださいと思います。

本協議会ですが、令和5年6月30日に発足以降、協議会の中の幹事会において、両病院の機能分化及び連携強化に関する調査審議を行ってまいりました。

大きなテーマといたしましては、匠瑛市の新病院整備と両病院の医療連携、この2点となっております。これまで4回の幹事会を開催し、本日に至っております。第1回目の幹事会では、協議事項の中で、香取海匠地域の医療需給体制の現状、将来推計、旭中央病院様の診療統計データの分析、そして、旭中央病院様の在院日数が長いという課題に対しての短縮余地と、転院先に匠瑛市民病院を選んだ場合のボリューム検討を行いました。

第2回目の幹事会では、海匠地域における地域包括ケア病床、回復期リハビリテーション病床の必要量の推計から、回復期の病床とされる地域包括ケア病床と回復期リハビリテーション病床が地域において不足していることを確認し、現状の匠瑛市民病院の経営課題について様々な角度から分析結果を見て、匠瑛市民病院の将来推計、入院患者数といった病床の必要量を確認し、本日の資料に織り込まれておりますが、匠瑛市民病院の整備パターン案の検討に入りました。

第3回の幹事会では、概算収支シミュレーションを用いた旭中央病院様との連携内容による国保匠瑛市民病院の整備パターン案の検討と、地域医療連携推進法人事例から見た海匠地域における連携策の検討を行いました。

第4回の幹事会におきましても、引き続き、匠瑛市民病院の整備パターンと地域医療連携推進法人の設立までの一般的な流れについて確認してまいりました。

なお、本日皆様にご覧いただく協議会の資料につきましては、これまでの4回にわたる幹事会で調査審議してきた内容の積み上げとしてアドバイザーに作成していただいておりますので、ご承知いただきたいと思います。

この間の幹事会での協議状況を簡単に申し上げさせていただきます。国保匠瑛市民病院の整備パターン案につきましては、複数の案を検討した中で、匠瑛市の新病院に対する共通認識を作れるよう意見を交わしてまいりましたが、最終的には匠瑛市が建て替えようとする病院の機能を判断するための材料とすれば良いのではないかとということで、あえてパターン案を絞らずに、検討したものを全てを協議会においてお示しするということになっております。

しかし、それぞれが考えるパターンに対しての優先順位は求めた方がいいのではないかとご意見がありまして、それぞれ意見を求めましたところ、アドバイザーからは、初期投資の抑制と効率性の観点から、1病棟1看護単位、病床数60床のC-2、C-3が望ましいのではないかと。匠瑛市民病院からは、現状においても入院患者が1日60人を超えることがあることから、B-1、B-2のパターンが現実的ではないかと。旭中央病院様からは、九十九里ホーム病院に回復期リハビリテーション病床が設置され、4月以降、旭中央

病院から医師が行く予定となっているということで、その後の状況を注視しなければならず、現状では優先順位がつけられないといったご意見をいただいております。

また、地域医療連携推進法人に関する検討につきましては、幹事会におきましては、事例、取り組み状況の確認、設立までの流れといった一般的な内容の確認にとどまっており、今後の方向性までを協議したものではありません。

本日は、幹事会で見てきた資料の要約版と、設立した後の運営費、費用等についてもアドバイザーの方で資料に加えていただいておりますので、ご覧いただきたいと思っております。簡単ですが、以上で幹事会での検討結果の報告とさせていただきます。

【事務局】

ありがとうございます。ただ今報告ありましたとおり、本日これから見ていただく資料は、これまでの幹事会での検討の積み上げで組み立てられた内容となっておりますので、ただ今の報告に関してご質問やご意見がございましたら、この後の議事の中でご発言をお願い申し上げます。

4 議題（1）国保旭中央病院との連携内容による国保匠瑳市民病院の整備パターン案について

【事務局】

それでは、これより議事に入らせていただきます。旭中央病院・匠瑳市民病院医療連携協議会設置要項第5条第1項の規定により、会長が議長となることが規定されておりますので、これより先の議事につきましては、会長に進行をお願いしたいと思います。それでは、よろしく願いいたします。

【会長】

それでは、規定によりまして、これより先の議事進行を務めさせていただきます。皆様、円滑な議事進行にご協力をお願いするとともに、忌憚のないご意見をいただきたいと思いますので、よろしく願いいたします。

議題（1）国保匠瑳市民病院の整備パターン案について、を議題とします。こちらの議題についての資料の説明をお願いします。

<アドバイザーによる資料①、別紙の説明>

【会長】

ただ今のアドバイザーからの説明と先ほど幹事会での検討経過の報告を踏まえまして、ご意見やご質問等いただきたいと思いますと思いますが、いかがでしょうか。

【オブザーバー】

旭中央病院と匝瑳市民病院の連携、それから匝瑳市民病院の建て替えに向けた議論がこのような形で大変深い議論がなされてきておりますこと、改めまして敬意を県としても申し上げさせていただきます。

また、議論の前提としまして、アドバイザーには、客観的な立場から分析、評価をいただいておりますことを、改めてお礼申し上げたいと思います。

2点ほどご質問させていただきたいのですけれども、まず、資料15ページに整備パターンごとの評価の資料がございます。こちらについて、C-3案またはB-2案、場合によってB-1案が望ましい、としてまとめているわけですが、その次の16ページの資料を拝見しますと、凡例として非常に優れているのが二重丸、比較的優れているのが丸、劣後するものが三角という中で、この表で一番優れている、総合的に見て優れている、と評価されているのはC-2、あるいはC-3であるのかと。

そしてB-2は、場合によってはC-1であるとかと同等の評価。単純に見ますとそういうふうに並んでいるのかなと見たのですけれども。

こういった観点から、アドバイザーの中で、優先順位をつけたものとしては、C-2であるとかC-3だというお考えであります。C-2、C-3ですと病棟単位が1単位になるというのが非常に大きな変化というところもあって、これまでの議論の経緯でも、1日60人を超える入院があることもあると、そのようなお話があったことも踏まえて、考えられる代案というか、そういう観点を考慮すると、B-2案というものも考えられるのではないかということで、このようなまとめの書き方をさせていただいているのかなと受け止めているのですけれども、そうした理解でよかったか教えていただきたいと思います。

それからもう1点、先ほどC-2とC-3の病床の考え方で、旭中央病院さんからの転院患者の見積もりが、すべて来る場合は73床、5割と見込んだ場合は13床分というような評価があったのですけれども、これについては、どちらの方が、蓋然性が高いと考えていらっしゃるのか、あるいはこの辺の評価は非常に難しいと考えていらっしゃるのかなど、コメント、考えがありましたら教えていただけましたら幸いです。

【会長】

よろしいでしょうか。

【アドバイザー】

ご質問、ご意見ありがとうございます。1つ目の質問ですけれども、16ページ目を見ていただきますと、C-2、C-3が二重丸多いのですけれども、元々このC-2、C-3案というのは、私どもの提案として提示させていただきました。

定量的に試算した場合は73床、C-1になるのですけれども、73床、病棟の構成として、60床以上となってしまうと2病棟になってしまうので、13床の差であれば1病棟の

方が、看護単位が1つになりますので、人員配置等効率的になるということで、C-2、C-3、まずC-2を提案させていただきました。

この場合、全て回復期となるということで、収支ですとか建築コスト等が抑えられるということで、我々としてはこの案が最も望ましいと思っておりましたがけれども、ただ16ページ目の下に書いてありますとおり、基本構想との違いが非常に大きいということ、それから匝瑳さんからの意見としても、現状60床以上の病床が埋まることもあるということもありますし、規模と機能の観点から言っても、あまりにも違いが大きすぎてなかなか受け入れがたいということでございましたので、折衷案としてC-3を提案させていただきました。一部急性期を残して回復期40床とするパターン、こちらも入院料としては2つに分かれますけれども、看護配置としては1病棟になるものですので、C-3になったとしても、将来的に20床の部分を回復期にシフトしていくことは可能だと思われまので、その場合は、収支としてはさらに良くなるだろうということで、16ページ目の下から3行目の収支のところは丸から二重丸とさせていただいた次第でございます。

もう一方の旭中央病院さんからの転院患者の見込みでございませけれども、これは非常に難しく、旭中央病院さんからも、なかなかこの数でということは難しいと、この場で決めるのは難しいということでございましたけれども、元々27床というのは旭中央病院の長期入院患者の中で、匝瑳市民病院の診療圏に該当する患者であったり、匝瑳市民病院の診療機能に合致した患者さんとして、27床分として見ておりました。

九十九里ホーム病院さんの動向ですとか他の民間病院さんの動向もございませので、本当にこの部分、27床いくかというのはなかなか難しいと思っておりましたので、想定数の5割と見込んでおいた方が安全なのではないかと私としては考えております。

【オブザーバー】

分かりやすいご説明どうもありがとうございます。そういったところで、アドバイザーの試算を見させていただきますと、いずれのところでも、外来機能などはあるのかと思えますけど、C-2案ですと年間の赤字が16ページの資料で、年間約1200万円というような形になるのでしょうか。この辺りですとなんとなく、収支相償みみたいなことも、年間の様々な努力で余地があるのかなとも想像はするのですが、C-3案ですと、ここにある数字を単純に12倍しますと、約年間5700万、B-2案ですと年8200万円の赤字が毎年計上されていくということになります。特に、病棟単位が2つになるような、急性期病床が多いような、B-2という場合には、こういった数字が大きくなるということでは

最終的な判断というのは、この後議論があるのかなとは思いますが、仮にC-2よりもさらに赤字幅が大きくなるようなオプションを取るといったようなことになった場合にはですね、やはりこういった試算が既に出ている、また、アドバイザーからも、今の状況からすると一番安全策はC-2、場合によっては、将来の応用動作が効きやすいC-3

がいいのではないかというようなお話もあって、そういうことをテーブルに乗せて議論をしているところであるので、それ以外のオプションを取ることが、仮に最終的に判断としてあるのであれば、20年後、30年後を考えた時に、医療需要の変化を見越して、急性期とそれ以外の病床機能の割合を、C-3のような考え方で、このように変えていく必要があるだろうといったこと、そういった見通しを関係者で共有し、記録、文書にも残しておくなどですね、今後、患者の需要が、ますます変化していくということが前提の計画であるということを、しっかりと基本計画等の共通認識として、残しておくということは、少なくとも、どのオプションにおいてもそうなのかもしれないですけども、必要なのではないかなと思いますので、ぜひそういったことをお願いしたいと思います。

先ほどの旭中央病院さんからの転院患者さんの見積もりというところも、今後どうなるかわからない、どちらかというところ5割の方が安全だというようなお話もありますので、そういったことが、楽観的なシナリオで、将来、健全経営に支障が生じないように、将来を見越して、病床の転換とか、そういうこともできるようにしておくということを、ぜひ検討いただきたいと思いますので、お願い申し上げます。以上です。

【会長】

ありがとうございました。他にご意見、ご質問等ありますでしょうか。

【アドバイザー】

今のお話と一部重なってしまいますが、整備パターンごとの評価を丸から二重丸のような形で評価させていただいている評価軸のうち、やはり非常に、ここ昨今重要なのは、15ページのまとめの1行目、2行目に書いたとおり、建築コストと人員の確保でございます。

ですので、そこが特に重要なところについては、C-2ないしはC-3というものは、非常に、先ほど将来の社会情勢の変化においても、対応がしやすいということが裏にはあるのかなと考えて提案させていただいた経緯がございます。

そういった意味では、B-2とC-1を、どう評価するのかという時に、1つの説明としては、その職員確保のところを非常に重要視させていただいてる部分が、1点あるのかなと思いますので、どの仮定も当然相殺していけば、少し数字も変わってくるでしょうし、将来変わり得るところですけれども、この冒頭申し上げた2つの評価軸に関しては、かなり見えている話であることと、対応していかなければならないものになると考えていることを申しさせていただきますと思います。以上です。

【会長】

ありがとうございました。ただ今のご意見等に何かありますでしょうか。他に、ご意見、ご質問あればお願いします。

【委員】

実は年末年始に、外科病棟で新型コロナのクラスターが発生してしまいまして、入院患者数は、年末で非常に少なかったのですけれど、実は50パーセント以上の患者さんと、職員も30パーセント超えですかね。

それで外科病棟、年末年始に全部閉鎖をして、必要な患者さんを、内科の方に入れて、内科の方には、感染が広がらずに、そのまま運営できて、切り抜けることができたのですけれど、現場では、この60床の1病棟体制で、もしクラスターが起こったら、もう全ての病床が使えなくなるという、そういうことになるのだろうという危機感を持っておりまして、感染症対策という面からは、1病棟にするのは、非常にリスクだという、そういう意見が出てますということをお伝えしておきます。

【会長】

ありがとうございます。その他、ご意見、ご質問はございますでしょうか。幹事会においては、先ほど報告があったとおり、様々なご意見も出ていたようではございますけれども、それも踏まえて、改めていかがでしょうか。

【委員】

よろしいですか。今も少し出ましたけれども、当院からの転院患者数の関係ですけれども、幹事会でも申し上げましたとおり、なかなか今の段階で、どの程度病床的に見込めるかというのは、非常に難しいところがあります。

意見としてお伝えしたいのは、実は12月に九十九里ホーム病院の関係で動きがございまして、これまでご承知のように、当院からの転院患者数は、イムス佐原が圧倒的に当院からの転院患者数1位だったのですが、九十九里ホーム病院が11月に回復期リハを設置して12月の段階で、当院からの患者数がイムス佐原を上回って、初めて九十九里ホーム病院が1位になったという、トピック的なことがありまして、おかげさまで、九十九里ホーム病院の回復期に移るということが本格的に動いてきたかなという印象を持っています。

ただ、1ヶ月間のことですので、これから、どういう状況になっていくかというのは様子を見ないとはいけません。今のところ、そういった形で増えつつある状況があると、さっき言いましたように、あとは当院の医師が4月に転院しますので、先生がうちにも非常勤で残りますので、これまで以上に、この患者さんは転院できるだろうという判断も、かなりしやすくなりますので、そこまではっきりすれば、非常にいいんでしょうけれども、もう少し4月以降の様子を見ないと、どのぐらいうまく九十九里ホーム病院に行って、その後、匝瑳市民病院にお願いするケースがどのぐらい出るかというのは、今の段階では、申し上げるのは難しい状況だということだけお伝えしたいと思います。一応、九十九里ホーム病院との連携についてはそのような状況になっています。

【会長】

ありがとうございます。その他にいかがでしょうか。

【オブザーバー】

よろしいでしょうか。恐れ入ります。〇〇委員、ご説明ありがとうございます。この資料でのメインのトピックではなかったかもしれませんが、私の質問へのコメントを兼ねてのご回答だったと思いますので、お礼申し上げます。

この会議体のテーマが2つあると認識をしております、一つが、匝瑳市民病院の建て替え、その形がどういうものかということがありますけれども、もう一つの大きなテーマとして、旭中央病院との連携というテーマがあると承知しております。そういった中で、やはり旭中央病院と匝瑳市民病院が、うまく役割を分担して、患者さんがトータルで、地域で切れ目なく必要な医療が受けられるように、そういった連携体制をさらに深めて、今後の医療需要に対応していこうという話が、大きなもう一つのテーマとしてであると承知しております。

ぜひ引き続き、この部分も、良い形で進むようにしていただきたいと感じますので、よろしく願いいたします。

【会長】

ありがとうございます。その他いかがでしょうか。せっかくの機会ですので、色々ご意見いただけたらと思います。

【オブザーバー】

このタイミングでの話が適切か分からないのですが、今日このような意見交換の場をもった後で、今後どのような形で、実際の建て替えに向けて動かれるご予定なのか、匝瑳市さんの方のお考えを聞かせてください。

【会長】

では、ただ今のご質問に対して、いかがでしょうか。お願いします。

【委員】

今のご質問ですけれども、まず今回、幹事会から含めて、本協議会まで、このようなアドバイザーのご協力をいただいて、パターンを作って検討させていただいて、その中で1つ言えるのは、回復期へのシフトと言いますか、地域包括ケア病床をできるだけ整備していくというような形の方向性がある程度示されていると思いますので、そういったところも踏まえまして、新病院が経営的にうまくいくような計画を立てていきたいと考えていま

す。

今後どのような流れで進んでいくかということになるかと思いますが、まず新病院の病床数を決定する必要があると思いますけれど、病院事業の中で運営委員会というのがございますので、そういった中での検討を行っていきたいと思います。

その上で、市議会の意見等をお聞きする必要があると思いますので、市議会の全員協議会の中で、基本構想・基本計画、また経営強化プランについても意見を伺うということになっていまして、その上でまた市民の意見をお伺いするというので、パブリックコメントを実施して、その先に決定をしていきたくて考えているところですが、よろしいでしょうか。

【オブザーバー】

大体のスケジュールというか、時期を教えてくださいませんか。

【委員】

病院事業運営委員会につきましては、2月半ばに開催することを予定しております。というのも、3月1日から議会が始まるものですから、その3月の議会の中で意見を聞く全員協議会を開くための、前段の会議ということになるので、一応3月の1日か、その議会の日程の途中で全員協議会をお願いすることにしています。全員協議会で意見を聞いた後で、市民にパブリックコメントを実施して、その辺の意見を踏まえた中で決定をしていきたくて考えています。

【オブザーバー】

基本構想・基本計画の修正をして、それと経営強化プランと一緒にパブリックコメントにかけるというイメージでいらっしゃいますか。

【委員】

そうです。

【オブザーバー】

分かりました。

【会長】

その他、皆さんいかがでしょうか。よろしいでしょうか。では、この議題の1につきましては、この資料を十分判断材料として、しっかり受け止めながら、さらなる検討をさせていただきたいと考えております。

それでは、他にないようでしたら、議題の1につきましては、匝瑳市民病院の内部、ま

た、市役所内部で基本構想・基本計画を修正する際の判断材料として、しっかりと検討させていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

4 議題（2）地域医療連携推進法人について

【会長】

それでは、議題の2の地域医療連携推進法人について、に移りたいと思います。こちらについての説明をお願いいたします。

<アドバイザーによる資料②の説明>

【会長】

資料のご説明ありがとうございました。ただ今の説明と、先ほどの幹事会での検討経過の結果を踏まえまして、ご意見やご質問をいただければと思います。

なお、幹事会においては、本日の資料に盛り込まれているような、事例、取り組み紹介の確認、設立までの流れといった内容の確認に留まっているため、幹事会において今後の連携の方向性を、協議したものではないということでございますので、よろしくお願いいたします。

以上、ご意見、ご質問、お願いいたします。

【オブザーバー】

1点、質問ですけれども、こちらの連携法人の取り組みについては、情報共有までという、現段階ではそういうお話がございましたけれども、今後これについてももう少し議論を深めていくといったご予定等がありますでしょうか。

【会長】

ただ今の質問について、いかがでしょうか。

【委員】

今回、旭中央病院さんの方と医療連携協議ということでやらせていただいた目的の1つが、匝瑳市の建て替えというのもあったと思うのですが、それ以外に、旭中央病院さんと匝瑳市民病院が、どのような連携をしていけるのか、そういったところも検討しているところがあったと思います。

その上で、当初、〇〇委員ともお話をさせていただく中で、連携協議の先には医療連携推進法人というのも当然視野に入れて話し合いをしていく必要があるだろうというようなお話もあったかなと思っておりますので、この連携協議会の下で、幹事会という組織がございまして、そういったところで引き続き、お互いどのような連携を進めていけるもの

なのかというところは、引き続き検討させていただけたらいかかかと、匝瑳市民病院としては考えているところです。以上です。

【会長】

それでは〇〇委員。

【委員】

連携のことはさて置いて、今日せっかく出席させていただいて、一言も喋らないのも申し訳ありませんので。

アドバイザーのこの分析データ、そして結論、これ一番やっぱりリーズナブルな結論じゃないかなと私どもは思っておりますけど、これはあくまでも匝瑳さんが決めることであって、これ以上何も申し上げることはないんですが、このC-2だとかC-3で個室化というのがあって、先ほど感染症に対してはどうだというお話でありますけど、今、小さな自治体病院でも、結構最近個室で建てるところがあって、その大きな1つの目的は、病床が非常に利用しやすい、空床ができにくい、それから感染症に強いという考えで個室化するような病院が出ておるようでありますので、これは最初から少し工夫すれば、2病棟なくても感染が出た時にやりようがあるのではないかなと思いました。

一応そういう感想で、非常にこう妥当なデータから、やはり患者さんも人口減で減るし、それ以上に人材の確保というのは、もっと大変だなという、これは最近つくづく感じていることでありまして、やはり病院維持するには、そういう面も大事だなという風に思います。

だからどうして下さいという話ではありませんが、ただその診療報酬の改定、まだ出てませんが、これは時代が3年、5年もこのままで進むと、またその時にあった施策というのも、やはり出てくるんだろうなという風にも思っておりまして、現時点ではという但し書きでありますので、その辺もやはり安全策を取ると、こうなるのだろうなと、こういう形だと思われまます。以上です。

【会長】

貴重なご意見ありがとうございました。医療連携についてはいかがでしょうか。

【オブザーバー】

よろしいでしょうか。先ほど、〇〇委員から連携推進法人については、今後も検討を深めていきたいというような話がございました。

連携のツールとして、こういうものもオプションとしては考え得るのかもしれませんが、またこういったこと、議論を深めていただくことは、いいのかなと思いましたが、質問に対してご回答いただきましたことについてのお礼兼ねて発言させていただきます

た。ありがとうございます。

【会長】

他にどうでしょうか。ご質問、ご意見ございましたらお願いします。

【オブザーバー】

その他に入ってしまうのですが、今後、この幹事会といいますか、協議会をどうされるのか最後に少し、旭中央病院様の方も含めて意見交換されたいかがかなと思います。

【会長】

これについていかがでしょうか。

【委員】

先ほど、今後の市議会の予定に合わせて基本構想・基本計画の修正という話がありましたので、やはりその修正結果によるところがかなり大きいのかなと思っておりますので、まずそれを拝見させていただいた上で、この部分でうちとの連携をさらに詰めていく必要があるというものになるのか、その辺がまだ見えない段階ですので、まずはそれを見させていただいて、前向きに必要な部分については、幹事会等で行っていくということも十分あり得るのではないかと思います。

まずは、匝瑳市さんの方で、それをまとめていただくということが前提ではないかなと感じましたので。

【会長】

ありがとうございます。〇〇委員、何かございますか。

【委員】

私も市民の健康、安全、安心を守って行かなければいけないという立場で、お互いに連携できるところは連携し合って、引き続きウィンウィンの関係でいければ大変ありがたいなと思います。

【会長】

ありがとうございます。よろしいですか。他にいかがでしょうか。

それでは、地域医療連携推進法人につきましては、当市の最終的な基本構想・基本計画の修正結果、また今後の地域の状況等を鑑みまして、引き続き幹事会などのテーブルで協議を必要に応じて行っていくということによろしいでしょうか。

【会長】

ありがとうございます。それでは議題2につきましては、引き続きの検討課題とさせていただきますと思いますので、よろしく願いいたします。

4 議題（3）その他

【会長】

続いて、議題の3、その他に移りますが、委員の皆様から何かありますでしょうか。

【オブザーバー】

議題1、議題2にも関連するかもしれませんが、先ほど〇〇委員から、アドバイザーから出されたご提案、それから会議でのご意見を踏まえて、市の方で今後の基本計画に反映させていただくというようなお話がございました。意見等をしっかり受け止めて、検討いただけるということで、ありがたいと思っております。

将来20年後、30年後、40年後と、色々な動向の変化があると思います。そういったものに対しての理想形というものがどうなのか、それに対して現状できること、また、将来こうしていくのだとか、そういうことも関係者の共通認識として生まれたことをしっかり残していただくような形で、最後の取りまとめをいただきたいなと思いましたが、繰り返し同じことを申し上げて恐縮ですが、お願い申し上げさせていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

【会長】

ありがとうございます。しっかりとその辺は受け止めていきたいと思っております。

【オブザーバー】

ありがとうございます。

【会長】

その他いかがでしょうか。

【オブザーバー】

若干繰り返しになるんですが、今後固めていく内容について、適宜このメンバーに共有いただけるという認識でよろしいでしょうか。節目節目ということにはなるとは思いますけれども。

【委員】

そのようにしたいと思います。

【オブザーバー】

細かい話ですが、できましたら基本構想・基本計画に、ここで話し合ったことなどを経過としてこういう案があり、こういう話し合いのもとで、協議会ではこういう議論があった、その上でこう決めましたという経過を、できましたら残していただければと考えておりますので、よろしくをお願いします。

【委員】

分かりました。

【会長】

では、そのようにお願いいたします。その他、よろしいでしょうか。オンラインで参加されております医療整備課様、市町村課様、よろしいですか。

それでは、特にいないようですので、事務局から何かありますでしょうか。

【事務局】

事務局の方から確認をさせていただきたいと思います。本日協議会で使用した資料の取り扱いのことでございますが、基本的には公表できるものという認識で、事務局としては考えておりました。

そういった考え方でよろしいでしょうか。ご確認をさせていただきたいと思います。

【会長】

それでは、ただ今の件について、本日使用している資料の取り扱いということですが、いかがでしょうか。

【委員】

公表ということでよろしいかと思えます。

【会長】

基本的には、公表しても問題ないということで、ホームページ等でお知らせする際に、両市で同じ内容を、公表していくということで、そのような形で進めさせていただきたいと思いますが、よろしいですか。

では、本日の資料については、そのように取り扱うということで、よろしくをお願いいたします。

その他、何かありますでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、ないようですのでこれで本日の議題を終了させていただきます。進行を事務局にお返しいたします。

5 閉会

【事務局】

議事の進行、ありがとうございました。以上をもちまして旭中央病院・匝瑳市民病院医療連携協議会第2回会議を閉会いたします。皆様、ご協力ありがとうございました。

以上